

第4回普代村教育振興基本計画策定委員会 会議録（要旨）

日時	令和8年1月30日（金）午後15時30分～午後17時10分
場所	普代村役場3階大会議室
出席者（委員）	◎山本博史委員、○橋本裕之委員、大芦賢一委員、高浜菜奈子委員、柏崎裕之委員、大上和吉委員、釜谷壽人委員、古馬丈裕委員、正路由希乃委員、宮本英紀委員、小野寺はるか委員、佐々木弘樹委員 ◎：委員長、○：副委員長
出席者（村側）	三船雄三教育長、道下勝弘教育次長、滝浦千加良指導主事、前川正樹生涯学習係長、小松鈴学校教育係員、中村克成室長（政策推進室）

会議概要
<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p style="padding-left: 20px;">三船雄三教育長</p> <p style="padding-left: 20px;">山本博史委員長</p> <p>3. 協議事項</p> <p style="padding-left: 20px;">（1）第1期普代村教育振興基本計画案について</p> <p style="padding-left: 20px;">（2）その他</p> <p>4. 事務連絡</p> <p>5. 閉会</p>
<p>【配布資料】</p> <p>資料No.1：第3回策定委員会（R7.11.20）での意見・提言に対する反映状況</p> <p>資料No.2：第1期普代村教育振興基本計画案</p> <p>当日配布資料①：第4回策定委員会での意見・提言【事前提出分】</p> <p>当日配布資料②：第1期普代村教育振興基本計画【概要版】案</p>

●協議事項（要旨）

（1）第1期普代村教育振興基本計画案について

○山本委員長

事前提出の意見に対する回答含めて協議事項1について質問・意見等お願いしたい。

○宮本委員

小中統合後の教職員の負担増について、教職員の人数は変更なしということなのでそれは了承した。

普代中学校の校長先生と話す機会もないと思うので、ちょっと聞きたい。小中の統合のメリットとデメリットはどのように感じているのか。

○柏崎委員

最大のメリットは、「中1ギャップ」の解消である。不登校であったり、いじめであったり、やはり小6と中1の間に大きなギャップがあるといわれている。小中の先生たちが日頃

から子どもの情報を交換していて、常に見ているという環境にあること、9か年の中で、小学校5、6年と中1が1つのユニットになって活動する場面もたくさん用意していくことになる。そうすると、中1ギャップを防ぐ、またはそういうギャップがないように子どもたちを導くことが可能になるという意味では、すごく大きなメリットだと思っている。

あと、教科指導について、小学校への乗り入れというのをしている。例えば、音楽の教員が小学校に行って合唱指導するなど、専門性を持った教員が実際に指導しており、小学生のときの大きなメリットだと思う。中学生は、小学生での算数などのつまずきを中学生で解決できないまま時間だけ過ぎているケースでは、つまずきを把握して習熟別の学習をするという中学校独自の取組をしており、一貫校になればより一層可能になると思っている。誰一人取り残さないという学力保障の意味でもメリットは大きい。

小中が系統的、計画的な教育課程を組んで、子どもたちに学習を保障していく、また生徒指導も行っていくということはメリットしかないのではないかと思っている。

○宮本委員

改善が必要な点は特にないということか。

○小野寺委員

中学校の体育祭、小学校の運動会で、今年は普代オリンピックということで、小学校と中学が一緒になって初めて実施した。例えば、小学校の方からの話では、もっと各学年の競技を増やしてはどうかと。中学生からは、ちょっとダイナミックな体育祭をしたいけど、小学生と一緒に少し抑え気味になってしまうのではないかという声も聞こえてきた。

○柏崎委員

1つの学校の中で、例えば9年生が1年生のことをどうやったらその子たちを楽しいと思えるように配慮するかと考える、そういう機会はなかなか他の学校ではなかったりして、いわゆる弱い立場の人に寄り添っていく、そういうことの基本にもなると思う。そういう意味では、メリットになってもデメリットにはならないと思っている。

私たち教師としての考え方というのは、できない理由を探すのではなくて、どうやったら実現可能か、より一層高い目標を掲げて、それを実現するためにはどうやったらできるのか、そういう職員集団を作っていくのが私たちの課題になっているし、それはやれると思っている。

○釜谷委員

この計画は令和8年から12年までだが、AI対応というのがどこにも出てこない。これからの大きな社会環境の変化の中でうたわなくてもいいのかなという気がする。

あと、社会教育ではなくて生涯スポーツになるのか、主な事務事業の中で中学校の部活動に対する支援というのはないのか。

○事務局

AIについて、どういった施策にどのような記載をするか、あるいは現状と課題の中にどのように盛り込ませるかというのは工夫をさせていただきたいと思う。

あと、部活動についても、生涯スポーツの基本施策のところなのか、学校教育の基本施策なのか、今後、部活動の地域展開と、そういったことについての表現、表記についても検討させていただきたい。

○高浜委員

1番気になっているところがあるが、基本理念について「スクール・コミュニティのむら

普代」というのは、村の目標、村のありようを話しているような気がする。教育の理念は、どういう子どもを育てたいとか、そういう話なのではないかと思うと、このスクール・コミュニティというのは手段であって、私たちはこれを通して何か多分成し遂げたい、見たい世界があるんじゃないかなって思っていて、そういうものが理念に来るのではないのかと私は感じた。

○山本委員長

15 ページを見ていただきたい。「普代型スクール・コミュニティとは」について記載されている。これは、まるで学校を使って地域を活性化するというように読めるかもしれないのだけれども、実は、この地域の活性化っていうことの中には、学校教育の活性化とか、社会教育の活性化、あるいは地域コミュニティの活性化ということがそこに含まれている。

そのようなビジョンを持って作られていくということで、この普代型スクール・コミュニティという理念のもとで、それぞれ、学校教育、社会教育がどういう形で活性化していくかっていうことが恐らく、これから問われることになる。何か学校を使って村づくりをしようという発想ではないと思う。

○事務局

これまで、平成 22 年前後に普代型スクール・コミュニティを普代村教育ビジョンの重点プロジェクトとして村の教育の将来像を描いてきている。確かに手段ではあると思うが、ここについては踏襲をさせていただきたいと思っている。

スクール・コミュニティの村を目指すということだけでも村外に発信できる村になるように取り組んでいきたいと思っている。

○高浜委員

スクール・コミュニティを通してうんぬんというのだったら分かるが、何かこれだと手段が一番先で重要視されているような感じがして、余りしっくり来ないというか、目指す姿が見えない。教育を通じて何をしたいかが分からない。他の委員の意見も聞きたい。

○小野寺委員

私もちょっとそここのところは引っかかっている。何がいいのかなと思ったときに、取組の視点にある 5 つを取り入れて、案になればいいかなと思っている。例えば、スクール・コミュニティを通じて、自然の中で命を尊び、共に生きる力を培う教育というのはいかがか。

○古馬委員

確かに表現の問題だと思うが、スクール・コミュニティが前に立ちすぎていて、何かちょっとモヤモヤしたところがある。スクール・コミュニティを軸にしている歴史は私も知っているんで、それを変わるとかではないと思う。

小野寺委員から提案のあった表現の仕方というか、聞きやすさというか、見やすさ、伝わりやすさとかを工夫すればいいのではないか。

○正路委員

やはり、スクール・コミュニティの印象が先に来るので、小野寺委員から提案のあった感じにした方がいいのかなと思う。

○宮本委員

小野寺委員が考えた理念も素敵な感じだと思う。再考をする余地はあると感じる。

○佐々木委員

スクール・コミュニティは他の市町村にはない良い表現だなと思う。今からこうしていくという大切なことだと思うので、それを残しつつ、あとは、小野寺委員の提案も入れ込みながら、少し短くしてもいいと思うし、簡潔に分かるような中身がいいのかな。他の市町村を見ると、1行で収まるような感じの表現になっている。

○大上委員

スクール・コミュニティのイメージが湧かない。概要版のイメージ図があるが、これを見ても、普代型スクール・コミュニティが、他の市町村の基本理念との差というか、違いがあって、普代だけの特別に強調する理念だというイメージが湧いてこない。ぱっと普代の教育振興のイメージが湧くような、なんかキャッチフレーズを考えたいと思う。

○柏崎委員

岩手県の現行の教育振興計画は、基本目標を「学びと絆で夢と未来を開き、社会を創造する人づくり」とうたっていて、「人づくり」ということが明確に理念となっている。これをよりどころにして、例えば、「命とふるさとの大切さを育む、学校と地域のつながりで未来をつくる人」とか、「命とふるさとの大切さを育み、学校と地域のつながりで未来を作る人づくり」とか、何かそのようなことが検討可能かなと思う。いずれにしても、国、県、市町村が縦軸1本そろっていくというのも検討の余地があるかと。

スクール・コミュニティを入れたらどうかという案もあるけれど、副題だったらそれを入れることは方法の一つかと。副題はよくそういう風な使われ方をするので、良いのではないかなと今思った。

○大芦委員

スクール・コミュニティは手段というか、ツールなので、例えばこのイメージ図のうえに、「地域社会」とある。その「地域社会」のところに例えば「つながり」とか「いのち」とか、「自然との共生」とかあって、スクール・コミュニティでもって、ツールとしてつながり、いのち、ふるさとと自然との共生もあるよ、それを学んでいくんだというような形の流れになれば、大事にしたいものがあるって、そういうツールとしてスクール・コミュニティがあるというようなことが皆さんのイメージなのかなと今聞いていて、そのような感じがした。

○橋本副委員長

スクール・コミュニティというのは、確かに言われてみると、手段だったり方法だったりするというのはそうかなと思う。

ただ一方で、学校と地域社会の新しいあり方を考えるっていうこと自体が、単に手段ではなくて、それ自体が新しいビジョンなんだっていう風に考えることもできるだろうと思う。それで、どちらが正しいというわけではなくて、重心の置き方ではないかと思う。

ただし、高浜委員の指摘の通り、やはりこれは教育振興基本計画で「スクール・コミュニティのむら普代」では、普代村の総合発展計画か、みたいな感じに見えてしまう。これはやはり子どもたちがどのように学び、育てていくのかということが教育振興基本計画の一番の目的で、そのために私たちは議論をしているのであって、村作りのために学校を使用するみたいなこと考えている人は誰もいないと思うが、結果、そういう風にやるんだったら素晴らしいなっていうことにすぎなくて、ここで考えるべきなのは、どのような子どもたちになってほしいかと。そのために私たちはどのようなことができるかっていうことだとすると、「いのち」でも、「ふるさと」でもいいが、そのような大切さをきちんと理解できる、大切にでき

るような子どもたちを育てたいと。そのため、そういうことができる学校を作りたいということだと思う。そうすると、結語は「教育」でないといけないのではないかなと思う。「普代」ではなく、「村」でもないかと思う。

スクール・コミュニティは、ここだけではなくて実際に僕は全部調べたけれども、いろいろ読んでいるうちに様々な人が様々なこと言っていて、なんだかよくわかんなくなってくる場所があって、だからこそ「普代型スクール・コミュニティ」といってしまうのも面白いと思う。

スクール・コミュニティの具体的で典型的なサンプルが「これだ」ということが言われているわけでもないが、ここで打ち上げているのであれば、考えないと仕方がない。ただ、「スクール・コミュニティのむら」という結語ではないだろうと、これまで何度も言ってきたが、やはり一番大事なのは、「生きてさえいてくれれば」と本当に思っているのも、どのような子どもたちを育てたいかっていうと、誰も取り残さなくて、悲しい思いをしなくて、ここで育ててよかったなって思えるような場を作っていくことを考えると、先ほど、柏崎委員が言っていた、いのちの大切さ、いのちを大切にできる子どもたちを育てられる、そういう教育みたいなことを言えればいいのではないかなと思う。もちろん「ふるさと」はいらないといっているわけではないけれども、そこで考えるべきなのは普代村では、どのような教育をして、どのようなふう子どもたちに育ててほしいかっていう、それが理念だ。元に帰れば、この教育振興基本計画でよくあるような通り一遍のものを作ることだって全然できただろうけれども、あえてこのスクール・コミュニティって言葉があったし、新しい学園ができるわけだから、先ほど柏崎校長先生も言っていたように、新しい学園の中で新たに取り組めることは確かなので、そこで何を1番軸にするかっていうことが結果的に問われるのではないかなと思う。だから、ひっくり返す感じの方が良いと思った。

○山本委員長

皆さん、地域の活性化を目指すという書き方をしているところにすごく引っかかりが出てくるのだと思う。

前のページに、「幼児教育、学校教育、社会教育を一体的に推進します」というように書かれているので、例えば、15 ページについて、「学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むための機関である学校運営協議会を活用した」、で、「地域地域のつながりを基本とし、開かれた学校を中心とする普代村における幼児教育、学校教育、社会教育の活性化を目指すビジョンです。そのことによって、子どもから高齢者までのウェルビーイングを向上させる、そういうプラン、ビジョンなのです」という風には書けば、地域活性化というか、村作りというのとは少しニュアンスが違ってくるかと思う。

○柏崎委員

何がベストなのか。基本理念は夢であり、我々のゴール像で、普代村が目指す教育のゴールは何なのかを考える。それは幼児教育、学校教育、社会教育共通の目標だ。となったときに、国の教育振興計画を見ると、このような言葉が書かれている。「持続可能な社会の作り手の育成」で、社会の作り手の育成ということは「人づくり」だ。それから、県の教育振興計画にうたわれている基本目標は「社会を創造する人づくり」、キーワードに「人づくり」、つまり、国にしろ、県にしろ、教育のゴール像は「人づくり」である。それが幼児教育、学校教育、社会教育で、いずれもそこに行くことがあるのではないかと私は思った。そうする

と、この基本理念の表記、いわゆるメインテーマになるものは、「人づくり」というのが終わりに、文末に来るような、そこが私たちのゴール像だよということをやはり描いていく必要がある。教育のゴール像は1つで、そのためのツールとしてスクール・コミュニティをどのように活用してやっていくかっていうのがあれば、今皆さんも言っているようなことがスッキリするのではないかなと思って聞いていた。

○高浜委員

私たちは教育のことを話しているので、恐らく「人づくり」というのがゴールなのですけども、私が伝えたかったのは、どのような人を普代村で育みたいのかっていう話で、恐らく、国も県も、今のこの状況の中で本当に社会がどうなるか分からないから、これからの社会をつくれる人をつくるという指針なのだと思う。

その中で、では普代も普代村を担っていける人をつくるってということが理念に来るのか、小野寺委員の提案のように、いのちを大切に育てる子を育てるってことを、普代の一番の目標にするのか、それを決める場がここなのかなと思っていて。

あと、スクール・コミュニティについて、ChatGTPに聞いて、勉強し、いろいろな情報を集めた結果、スクール・コミュニティが目標と目的としているものが3つあると、地域活性化みたいなことは余り書いていなくて、一つ目は子どもが自分の人生の主体となるために、2つ目は大人が育てる側からそこにある側に行くため、3つ目は社会が分断せずに循環するためっていう風にあった。スクール・コミュニティの理解も深めた方がいいのかなと感じた。

○橋本副委員長

人づくりというのは基本線として、問題は大阪で人づくりをするのと、普代村で人づくりをするのは多分状況が違う。それが、国とか県とか、大きな範囲で言っているがゆえに、一般的で、かつ抽象的になりがちの人づくりという概念をもう少しこの土地の歴史とか風土とか自然とか経済状況とか、様々な関数の中に落とし込んで、どのような人作りができるかっていうことが大事だと思う。

そのため東京でやっている人作りをうちでやっても絶対にうまくいかないし、そのようなことをするよりは、ここには、前からいろいろ議論に出ていたけれど、ものすごい自然だったり、第1次産業だったりとか、いろいろなものがある。これはすごい財産で、鶴鳥神楽も財産だ。良いもの、価値のあるというか、資源になるものはたくさんあるので、それを踏まえた形で人づくりってものを考えていった方が、無理に変なことするよりはヒット率が高いと思う。

そうしたときに、やはりこの土地で、ここでの今のいろいろなものを生かした、自然は平仮名だと変だなって、終わった後申し上げたが、これだけ漢字なのはやはりおかしいなと思って、で、平仮名でいいのかなと思って調べてみたら、幼児の本とか自然なんて本いっぱいあったので、撤回して平仮名でどうですかって言おうと、その方がいいと思う。

自然ってというのは、後から出てきた話かもしれないけど、やはり大きなアドバンテージだと思うし、そういうものを活用すること、自然環境の中で人づくりをしていくのはここでできないということを考えないといけないと思う。

で、あとは少ししんどい話だが、あえて言うのは、田舎でいじめとか不登校とかがあったときに、逃げづらい、逃げる場所がないというのは、やはりすごいしんどいし、閉じ込められてしまう。この感じは、具体的に直接聞いたりしたこともあったので、東京とか大阪より

もこちらの方がきついよなと思っている。

それで、やはりいのちというのは、はっきり言うとそれが1番大事だと思う。改めて考えないといけないのは、ここの置かれているアドバンテージ、そして問題として克服しづらいかなり深刻な問いを、何かこの、ここならではの人づくり、教育でその方向性としてここで訴えればいいと思うし、そのためにスクール・コミュニティっていう考え方は多分生きるとは思っている。近隣の市町村でどこも言っていないので、先に言っちゃった方がいいかなみたいなのもあっていいと思う。

そういう意味で言うと、キャッチフレーズとしてスクール・コミュニティって言うのもアリだと思うが、ここでそれは言わないでもいいとは思っている。むしろ、何を大事にするか、何が1番、恐らくここにもう5つ上がってきたと思う。つながり、いのち、ふるさと、しぜん、まなび、まなびについてはちょっと後で僕言いたいことあるけれど、この辺りに1番大事なものはもう既に出ていると思うので、どこにフォーカスを当てるかっていうようなことかなとは思っている。

○山本委員長

16 ページに「実現を目指す」と書かれているけれども、柏崎委員が言われたように、教育は、学校教育であっても社会教育であっても、やはり人づくりだと思うので、そういう意味では、園、学校、地域が一体となって活力を生み出していく「普代型スクール・コミュニティを実現する」、さらに、普代型スクール・コミュニティというのは施設一体型の一貫、義務教育学校になるということで、それで実現できたわけではない。いろいろなつながりをどんどん作っていくことで、そこに関わる住民を増やしていきたい。そういうことを考えると、例えば園、学校、地域が一体となって、活力を生み出していく持続可能な普代型スクール・コミュニティを実現するような人作りをしますと、何かそのような形で書いたら、もう少し教育ときちんとつながるのではないかなって思う。

○事務局

委員の皆様から理念について多数のご意見をいただいた。事務局としては、皆様のご意見を整理させていただいたうえで、スクール・コミュニティを活かす方法と「人づくり」を重点に、何案か理念を作らせていただき、委員の皆様を選んでもらいたいと考えている。ご協力をお願いしたいと思っているが、いかがか。

○橋本副委員長

少し乱暴のこと言うけれど、「人づくり」は当たり前ではないか。教育とはそういうものなので。問題はどのような人をつくりたいかっていうことなのであって、だから、その人づくり、イコールスクール・コミュニティと今言っていたけれど、そのような話ではなくて、このような具体的なこと私たちは考えている、こういうやり方を考えているよというようなことは言ってもいいと思う。恥ずかしかったらやめればいだけの話で。一発当ててやろうかと思って言えばいいと思う。

本当にそう思っている。だけれど、問題はどのような人を作りたいかっていうことで、普代でしかできない、普代ならではのアドバンテージで人づくりをするということで、事務局としては何を迷っているのか。

○山本委員長

例えば、持続可能な普代型スクール・コミュニティを実現する人づくりを目指します。そ

の後に、学校教育にはこのような人をつくります。社会教育ではこのような人をつくりますというようなことが書かれていたら、恐らく問題はないのではないかと。

○柏崎委員

「人づくり」について、橋本副委員長の話と全く矛盾するものではなくて、まずその前に、どのような人をつくりたいってというのは、当然入ったうえで人をつくるということです。

例えば、国の教育振興基本計画では、持続可能な社会の作り手が、つまり持続可能な社会というのがどのような人になるか。加えて、次期の学習指導要領策定に向けて、今、中教審の論点整理で示された中にこのようなものがある。生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、民主的で持続可能な社会、作り手をみんなで、すごく私、これはいい言葉だと思ったが、いずれも人づくりの前にどのような人というのがうたわれている。

それを皆で言語化していけばいい話で、そこに我々のふるさとの自然とか、人とか、歴史とか、いろいろな多様性をそこに盛り込んだ文章化はしていくことは当然必要だと思う。なので、橋本副委員長の話と私が言っている話とか、皆さんの意見が齟齬しているわけではない。どのような人間を育むのかという人づくりになればいいのではないかなと思っている。

○山本委員長

それでは、事務局から提案があった方向でよいかと。

○事務局

本日審議いただいた内容を踏まえ、2月に入り、パブリックコメントの募集を実施したいと思っている。基本理念について確定をしていない中、このままパブリックコメントも出せないで、パブリックコメントに出せるように、速やかに基本理念は確定をさせていただきたいと思っている。

今、皆様から意見を踏まえた中で、事務局の方で何案か示したうえで、委員の協力を得て、最終的に教育委員会として1本に確定したい。このことを了解いただきたいと思うがいかがか。

○山本委員長

そういう形で協議1については終了という形でよろしいか。

○橋本副委員長

まだ結構、いくつか問題だと思うことがあるので言わせていただきたい。

16 ページに園、学校と地域の役割ってところの8番の丸印のところ、いじめの対応ということで、区域外就学のことを書いている。転校のこととかは書けないってことだが、実際そのようなことを示唆している部分ではあるという風に読むことができる。そこで7番のところは、フリースクールの開設とかっていうのも可能性として書いてあるけれども、これこそ逃げ場所なので、ここにもいじめや不登校児童生徒の置かれた状況にも配慮してというか、「いじめや」を入れてほしいと思っている。

18 ページの「まなび」であるが、何か変な話になっていると思う。もともとこの「まなび」が出たのは、学び方を「まなぶ」ということで、ノウイング・ハウの話だったわけだ。それで、プラスして個別最適なまなびとか、あと、先ほどもう一つ付け加えてという意見があった。協働的なまなびとかっていうようなことで、要するに特色のある学びだ。ただ学校で座って勉強するとかっていうのではなくて、学び以上の何かイメージでここでは語っていたはずで、協働的な学びもいいけれども、あと、やはり子どもたち自身が自分たちで考えて、主

体的に考えるとかっていうも探求的な学びもある。

僕は福井県の小学校でずっとそのお手伝いしているけれども、そういう、ここでは探求的な学びとは言っていないし、別に言わないでとは全く思わないけれど、主体的に自分たちで考えて動くっていうのも学びのあり方だと思う。で、単に勉強するっていう意味ではないんですよっていうことのはずだ。

で、問題は、取組の視点で、「まなび」とか、「つながり」とか、「いのち」とか入れるというのは、これは、会議終了後に知恵を出し合う中で、考えたことで、すごく良かったと思う。これがあることによって、個別的なそれぞれの取組と、全体的なビジョンというか、方針が取組の視点っていうのが、つながりがつくれたことが見やすさになっている理由だと思う。

ただし、著しく不均衡な「まなび」が40もある。学ぶことは教育振興基本計画なので。一方、「自然との共生」は5、6個ぐらいしかなかった。一番自然が少なくて。とにかく不均衡だ。で、その数をそろえろといっているわけではないけれども。

「まなび」について、例えば、25ページのコンピューターの活用、図書館を活用した授業を通して情報活用能力の育成を図りますと、普通のことだ。さらには、43ページで、体育管理施設について、安全性や機能性、環境などに配慮しながら必要な施設、機能強化をしてが「まなび」とあるが、これは関係なくないか。もう片っ端から「まなび」になっているので、ものすごい適当な書類にしか見えない。ただ、25ページのGIGAスクール構想であるとか、協働的な「まなび」、個別最適な「まなび」とか、あるいは1番下のところ、小中学生に自ら進んで学習する場を提供する塾、これ、主体的な学びだ。

そういう協働的であったりとか、個別主体的であったりとか、あるいはオールタナティブな学び、学び方自体を意識したことで、それは探求的な学びだったりとか、主体的に体験する人のこととか、そういうことを学びと呼ぶわけだから。呼ぼって言ったわけだから。そうすると、空欄になったらまずいのだろうなとは思う。つながりができなくなるから。そうしたらそういうの取っちゃえばいいのではというのはちょっと思っている。

でも、残したいものは無理やりでもつながりとかなんかそういうとこに持っていけばいいので、ちょっと書類として不細工すぎるっていうのが僕の印象だ。ただ、もう不細工なだけでダメだとは思わないけれども、みっともないといっているだけなので、間違っているとは全く思わないけれども。もうちょっと丁寧に言えないか。とりあえず全部「まなび」を放り込んでおけばという意図しか見えない。

で、結局、ここで「まなび」という言葉を使っていた当初のビジョンっていうのがすっかりどっかへ行っているのは大変残念だと思う。不均衡になっているって言ったときに、それどうしたらいいのかなと。例えば、総合発展計画の施策一覧ということで、一覧表みたいなものが出ていた。例えば、「まなび」の一覧、「自然との共生」の一覧、「つながり」の一覧とか作ってみたら、滅茶苦茶おかしいことになる。「自然との共生」とかはほとんどない。そうすると、やはり少しアンバランスすぎるというのがあからさまなので、僕はその一覧を作る。どういう図が一番適切かどうかはちょっと分からないけれども、例えばこの総合発展計画のものかも同じようなもの作っても、一目でぱっと見たら、よりこの基本的な理念と取組と、ここのやろうとしていることとのつながりが見やすくなるのではないかなと思った。

○山本委員長

取組の視点の欄があることで、全体がうまく結びついて見やすくなったところはあるけれ

ども、確かに不均衡で、そうかといって取組の視点が空欄だらけなのはどうかと。では、その取組をするとき、どのような視点を多めにやるのかというようにも言われてしまうので、何かしら入らないとは思う。

非常に悩ましいところで、例えば 43 ページの体育館の施設に、安全性や機能性、環境などに「まなび」を入れたら、これは我々と関係ないという風に橋本副委員長は言われた。例えば、行政の方が取組む上で、そういう学びの視点でという風に読めば、そこは読める。そこは工夫をしながら説明できるようにすれば、不均衡があっても何とかかなと思う。

○橋本副委員長

少し文言にそういう工夫をすることである程度は乗り切れると。で、今全部「まなび」としているけれども、「つながり」もできるよねとか。それはもうほとんどテクニックの問題であるけれども、大事なことだ。

久慈市の計画とかを見ても、これほど詳しくないので、もうこれは別に当たり前だからいいのではないかという項目が空欄なのはまずいと思う、理屈上。形式上の話だが、そしたらもう取っちゃってとか、それは工夫してほしい。

○宮本委員

男女共同参画について、最後に「関係機関と連携し、男女が共に働きやすい条件整備に取り組めます」って、これ、誰に対してっていうのがあって、そういう教育をするというのだったら分かるけれども、男女がともに働ける環境の整備に取り組めますって、先生に対してやるのか、生徒に対してこう教えるのかなど。誰に対してなのか、何か見えていないとか、ぶれているのではと思うので、いっぱいこうやって並べるのはいいと思うが、いっぱい書いても逆にブレてしまうと思うので、必要のないものは消してもいい、必要ないというか、個人的には、削除しても問題はないと思う。

デュアルスクールって書いてある。16 ページと 33 ページに書いてあって、フリースクールの立ち上げについては、前回の会議では、なかなか苦しいところがあると言っていたので、デュアルスクールを調べたら、都会の学校と行き来するというか、これ、子どもたちってやっぱ違う環境で、接点があるっていうのもすごい、こういう世界もあるなっていう、環境を変えるってすごい大きい教育だと思うので、個人的にはすごくこれに期待している部分ではあるので、もう少し全面的に推していければいいのではないかと、自分はこれに期待しているので、もうちょい大きく扱ってもいいと思う。

○山本委員長

男女共同参画のところは、学校の先生向けとか、子どもたちに教えていくことだけではなくて、事業所とかそういう部分も含めた社会教育の部分にもこれは必要だろうということで書かれている。そこはあっても全然おかしくはない。

○高浜委員

18 ページの取組の視点のところは整理されていて、すごく分かりやすいなと思ったけれども、もう 1 つ追加されるといいなと思った視点がある。学びの主体が学び手であるっていうこと、学ぶ人が学びの作り手である、主体であるっていうところをここに入れられたらいいかなと持っている。

2 点目は、概要版の施策ごとの目標とする姿の基本施策 1 の部分で、「確かな学力、豊かな心、健やかな体を兼ね備えて」とあるけれど、「兼ね備え」という言葉がちょっと引っかかっ

ていて、何か、全部できるすごい人みたいなイメージがされてきてしまって、この文言を見るとちょっと私も苦しくなるという部分がある。変えられることができるのであれば、この「兼ね備え」をもうちょっと柔らかい表現だったりとかにできないものかなと思った。

○柏崎委員

指摘のあった「確かな学力、豊かな心、健やかな体を兼ね備え、生きる力を」というくだりだが、実は同じことを2回繰り返している。なぜかというと、生きる力は学習指導要領の定義では知・徳・体のことになる。なので、2回同じこと言っていることになる。「確かな学力、豊かな心、健やかな体を兼ね備え」というのが、もう既に「生きる力」のことなので、どちらかにした方がいい。「生きる力」という言葉で集約してよかったのかなってちょっと思った。

○山本委員長

生きる力で集約しておいて、もし必要であればカッコをして3つを入れる、そういうやり方でもいいかもしれない。

○橋本副委員長

当日配布の資料にもあるが、命のところに「かけがいのない」とあるが、これは間違いだ。このような日本語ない。「かけがえ」で、「え」。これも恥ずかしい。

それから、スクール・コミュニティのイメージ図のところで、鉄塔はまだいいけれども、なぜ観覧車があるのか。観覧車は関係ないかと思って、これ、どっからこのようなものが出てきたのかと。このようなもの普代村で計画はないと思うので、それこそカモシカとかクマとかにしといた方がいいんじゃないか。自然を売りにするわけなので、個人的にはクマがいいのではないかと思っているけど。どういう経緯でこれになったか知りませんが、工夫していただければと思う。

○事務局

イラストも普代らしさを出したいと思う。

あと、高浜委員からいただいた、関連して柏崎委員からも話のあった基本施策1の文言については、総合発展計画のものがここにそのまま載せてあるので、ここは調整させていただきたい。

○山本委員長

それでは。特にご質問等ないので、以上で協議事項1を終了する。

以 上